

定住人口の確保と地域活性化に向けて

移住・定住の取り組みを進めています

地方創生を進めるうえで、首都圏から地方への新たな人の流れをつくるのが課題となっていますが、近年では、定年後の快適な田舎暮らしを希望される方々に加え、若者の地方への転職や祖父母の地元に戻る「孫ターン」と呼ばれる動きが活発化しています。

■現在の主な取り組み

事業名	内容
各種情報発信事業	○移住定住パンフレットの作成・配布 ○移住定住ホームページの運営 ○首都圏等プロモーション活動 ○空き家・空き地情報バンクの運営 ○国・北海道のポータルサイトへの記事掲載 ○北海道移住促進協議会等への加入
体験事業	○移住体験ツアーの実施
相談窓口の設置	○ワンストップ窓口の設置



このような中、本市においても、

定住人口の確保と地域活性化を図るため、移住・定住の取り組みを推進しており、首都圏で開催される移住相談会への参加⇨写真右⇨、空き家・空き地情報バンクの運営、ワンストップ窓口を設置するなど、移住希望者に対する支援の充実を図る等移住者の誘致に努めています。

また、西芦別地区においては、民間事業者による移住者向けの専用住宅の建設⇨写真左⇨完成予想図⇨など、生活環境の整備が進められています。

移住者の受け入れにあたっては、行政のみならず、民間事業者や団体・市民の皆様と一体となって進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

本市に移住された方に聞きました

本市野花南町に移住された大原さんご夫妻にお話しをうかがいました。

★いつ頃、どちらから移住されましたか？

平成26年10月、福島県郡山市より移住しました。

★芦別に移住された「きっかけ」は？

東日本大震災がきっかけで移住を考えた。私たちは災害救助法の対象外でしたが北海道に興味をもち、3年前に芦別を訪れた際に私たちにとっての北海道は「ここだ」と思い決断しました。

★芦別のイメージはいかがですか？

自宅からは、季節「霧虹」が見え、冬には「ダイヤモンドダスト」や「サンピラー」などの自然現象の美しさにうっとりしています。食べ物のもれもおいしく、驚いています。夏の午前3時前からの日照の長さや農家さんの絶え間ない努力のおかげだと思っています。



★芦別の生活はいかがですか？

私たちが生活している場所のまわりは巨大田園。夏は午後3時半ころになると田んぼから涼しい風が吹いてきて

快適です。冬の厳しさはまだ実感していませんが、雪かきが日常なことが北海道の自然と暮らす醍醐味だと覚悟して来ました。

★地域との関わりについてはいかがですか？

地域の皆さんは本当に大きな心で私たちを見守ってくださいます。ここに住んでからは感謝の連続ですが、何もお返しができずに申し訳なく思っています。

★今の生活に不便なところはありますか？

安全・安心な土地、空気、そして生きるために一番大切な水があるということだけでありがたいと思っています。大震災を経験した者として、全て備わっている素晴らしい場所だと思っています。

★芦別でやってみたいことはありますか？

10年計画で野菜、ハーブ、果樹等の花畑をつくっていききたいと思っています。一度にはなく、この地を開拓されてきた哲学的思考の基本である「土くれと共に」「一寸引き」を実行できたらと思っています。安全・安心な土地があるからこそその目標です。